

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社 日本陸送 寄居営業	階数	地上2F
建設地	埼玉県大里郡寄居町大字赤浜字牛	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	70 人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,660 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年6月22日
敷地面積	19,240 m <sup>2</sup>	作成者	川田工業株式会社一級建築士
建築面積	7,018 m <sup>2</sup>	確認日	2020年6月22日
延床面積	12,204 m <sup>2</sup>	確認者	川田工業株式会社一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	90%
③上記+②以外の	90%
④上記+	90%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・節水器具の採用や緑化を積極的に行い、環境負荷の低減に配慮している。		
<b>Q1 室内環境</b> ・照明の細かな点滅区分計画により、室内の明るさや照明の制御性に配慮している。 ・全館禁煙とし、室内空気質環境を良好に保つための配慮をしている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・高い階高を確保し、空間のゆとりに配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・断熱性能の高い建材を採用し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。 ・躯体と仕上材が容易に分別可能な構造とし、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・渋滞緩和に配慮した駐車場計画としている。 ・周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)株式会社 日本陸送 寄居営業所新倉庫建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.31		-	3.1
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能						-	-	-	-	
1.2.2 界壁遮音性能						3.0	1.00	-	-	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.7	0.35	-	-	2.7
2.1 室温制御						3.2	0.50	-	-	
2.1.1 室温				断熱性能の高い建材の採用		3.0	0.38	-	-	
2.1.2 外皮性能						4.0	0.25	-	-	
2.1.3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.2	0.25	-	-	3.2
3.1 屋光利用						1.8	0.43	-	-	
3.1.1 屋光率						1.0	0.60	-	-	
3.1.2 方位別開口						-	-	-	-	
3.1.3 屋光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						-	-	-	-	
3.2.1 屋光制御						-	-	-	-	
3.3 照度						3.0	0.21	-	-	
3.4 照明制御				複数の点滅区分があり、スイッチで調整可能		5.0	0.36	-	-	
4 空気質環境						3.9	0.25	-	-	3.9
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
4.1.1 化学汚染物質				全面的に告示対象外又はF☆☆☆☆の建築材料を採用		4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						3.0	0.30	-	-	
4.2.1 換気量						3.0	0.33	-	-	
4.2.2 自然換気性能						3.0	0.33	-	-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
4.3.2 喫煙の制御				全館禁煙		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.0
1 機能性						2.4	0.40	-	-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ						1.6	0.40	-	-	
1.1.1 広さ・収納性						3.0	0.33	-	-	
1.1.2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33	-	-	
1.1.3 バリアフリー計画						1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						2.3	0.30	-	-	
1.2.1 広さ感・景観						1.0	0.33	-	-	
1.2.2 リフレッシュスペース				リフレッシュスペースの確保、自販機の設置		5.0	0.33	-	-	
1.2.3 内装計画						1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計				防汚性の高い内装材の採用等、清掃のしやすさに配慮した設計		4.0	0.50	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2.1.2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						4.0	0.30	-	-	
2.2.1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				耐用年数の長い外装材の採用		5.0	0.20	-	-	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				耐用年数の長い内装材の採用		5.0	0.10	-	-	
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔				耐用年数の長い配管材の使用		5.0	0.20	-	-	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.8	0.20	-	-	
2.4.1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2.4.2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
2.4.3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
2.4.4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
2.4.5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			4.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			5.0	0.40	-	-	
工場:階高3.9m以上を確保 壁長さ比率<0.1							
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	-	-	
工場:50%以上の割増							
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
断熱性能の高い建材の採用							
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.0	0.50	-	-	3.0
[BE][BEIm] = 0.80							
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水器具の採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
高効率な設備機器を採用し、CO2を低減							
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			1.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
駐車スペースの確保、渋滞に配慮した導入路計画							
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			4.0	0.70	-	-	
周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画							
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)株式会社 日本陸送 寄居	BEE	1.0	BEEランク	★★★
------	------------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.4	+	2.6	=	6.0	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上		すばらしい 8.0以上	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.4
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4
<配慮した内容を記述> 高効率な設備機器を採用し、CO2排出量を抑制している。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 空地部分を積極的に緑化し、生物環境の保全及び温熱環境の改善に配慮している。			

:入力欄